

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地			
東京国際福祉専門学校	平成8年2月26日	武田 哲一	〒160-0022 東京都新宿区新宿1-11-7 (電話) 03-3352-9280			
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地			
学校法人東京国際学園	昭和60年4月5日	武田 哲一	〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-3-8 (電話) 03-3367-1103			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉	社会福祉専門課程	子育て支援学科	平成20年文部科学省告示 第11号	-		
学科の目的	本校は、学校教育法の規定及び児童福祉業界並びに児童福祉の専門職を志望する者等の要望を踏まえ、職業実践専門課程に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として、企業等と連携を密にしながら実務に関する知識、技術について組織的な教育を行うものとする。					
認定年月日	平成28年2月29日					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間又は総単位数	講義	演習	実習	実験
2年	昼間	2226	586	1290	320	0
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒委員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人	17人	0人	8人	11人	19人	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:—			成績評価		
長期休み	■夏季:7月31日～9月2日 ■冬季:12月25日～1月6日 ■春季:3月16日～3月31日			卒業・進級条件		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任と主任が主に対応するが、事務局職員及び他の専任教員も相談・指導に当たっている。			課外活動		
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成30年度卒業生) 保育園 ■就職指導内容 ①就職ガイダンスの開催②求人票、各種就職セミナー(説明会)ポスターの掲示③卒業生の体験談を聞く会の実施④個別面談指導 ■卒業生数 20 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 12 人 ■就職率 71 % ■卒業者に占める就職者の割合 60 % ■その他 ・進学者数: 1人 ・東京国際モンテッソーリ教師トレーニングセンター (平成30年度卒業生に関する平成31年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3 ■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) 資格・検定名 種 受験者数 合格者数 保育士 ② 20 20 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 6% 平成30年4月1日時点において、在学者32名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月30日時点において、在学者30名(平成31年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、体調不良 ■中退防止・中退者支援のための取組 体調不良の学生、経済的に困窮している学生に対しては、学生及び保護者と話し合いをしながら最善の方策を講じる。授業に遅れがちな学生に対しては、学科全教員で徹底した個人指導を実施する。					
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 授業料のうち、116,000円から696,000円の範囲で減免する制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象者無し。 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無し ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)					
当該学科のホームページURL	http://www.ti-fukushi.ac.jp					

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度中に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針  
 本校は、保育士養成校として所定の必修科目について校内で講義・演習・実習等を行っているが、さらに、専門分野に関して、保育所など児童福祉施設において支援が必要な子ども・保護者に対する保育・子育て支援方法など、保育現場において必要となる知識・技術・技能を修得するため知見のある企業等と連携した職業実践教育を行うことを基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

東京国際福祉専門学校教育課程編成委員会規程第2条により、同委員会の目的として、「必要な情報の把握・分析を行い、本校の教育課程の編成に活かすこと」を定めている。第3条では所管事項として、「教育課程のあり方、その他、教育課程の編成に関する事項」と定めている。それらを踏まえ、教育課程編成の基本方針及び具体的なカリキュラム決定に関し、教育課程編成委員会の意見・要望・提言等を最大限取り入れている。それらの内容を理事会、学科教員、事務局職員に周知し、教育課程編成の基礎としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
浦尾和江	東京都介護福祉士会理事 田園調布学園大学人間関係福祉学部教授	平成31年2月5日～同年3月31日	①
草野篤子	日本世代間交流学会会長 白梅学園大学名誉教授	平成31年2月5日～同年3月31日	②
荒瀬英樹	社会福祉法人若竹大寿会品川区立杜松特別養護老人ホーム施設長	平成31年2月5日～同年3月31日	③
近藤幹夫	白梅学園大学学長(保育学)	平成31年2月5日～同年3月31日	②
町田とし江	社会福祉法人二葉保育園二葉南元保育園園長	平成31年2月5日～同年3月31日	③
武田哲一	学校法人理事長・校長	平成31年2月5日～同年3月31日	
京谷健司	事務局長	平成31年2月5日～同年3月31日	
小林幸弘	事務局長補佐	平成31年2月5日～同年3月31日	
福田ひとみ	介護福祉科主任	平成31年2月5日～同年3月31日	
松井友子	子育て支援学科主任	平成31年2月5日～同年3月31日	
田島千英子	国際福祉ビジネス科主任	平成31年2月5日～同年3月31日	
木村一秋	介護福祉科副主任	平成31年2月5日～同年3月31日	
広田 学	総務課長	平成31年2月5日～同年3月31日	
宗 國男	質保証推進室長	平成31年2月5日～同年3月31日	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月に2回)

(開催日時(実績))

第1回 平成31年2月5日 18:00～21:00

第2回 平成31年2月26日 18:00～21:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①保育現場では保護者対応に悩む保育士が増えている。授業の中でその対応について学んでほしい～「保育者論」「家庭支援論」等で具体例を挙げながら学ぶよう心がけている②現場では、連絡帳の記入など文章を書く作業が多い。指導を徹底して～「保育実習指導」「保育実践演習」等で深める③福祉現場の実情や本校の教育課程に精通している卒業生の力を活用すべき～必要な科目で随時卒業生に来てもらい話をしてもらっているが、さらに強化したい④就職してから気づく、いわゆるブラック企業の存在が社会問題になっている。在学中に学ぶことが必要だ～「社会福祉」等の授業で、折に触れて扱っているが、なお、強化する⑤核家族化が進んでいるが、世代間の交流の場の少ない学生にそのことの大切さを教え、現場に入った時に、子どもたちやその保護者に伝えられる保育士になってほしい～幸い本校は、介護福祉科と子育て支援学科がある。全学的に取り組みたい⑥保育現場は、人手不足のため時間に追われている。時間を効率的に使うためのツールとしてのITの活用も大事だ～「パソコン操作」の授業を工夫したい⑦入学希望者がどのような教育を求めているか広くアンケート調査を実施してはどうか～実現に努めたい。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 実習依頼先に対し、本校の実習Ⅰ-1、Ⅰ-2、Ⅱ、Ⅲの目標と事前学習内容の周知を電話、文書連絡等により実施する。実習に臨む学生の現場理解を深める。実習前の保育体験を行い、現場理解を深める。保育実践演習の中のフィールドワークにおいて現場を経験する。授業内容の趣旨を伝え協力を依頼する。		
(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記 年2回実施している外部施設(保育園等)と養成校との連携会議において、学生の状況について双方の立場から率直な意見交換 を行い、指導内容の共通化を図る。実習を企業に依頼する際、当該実習の法的位置づけ、本校の方針、実習生情報等を依頼企業に説明し理解を求め、実習の目的を達成するための実習内容・段取り等を学校及び実習先で協議する。実習生のオリエンテーションを行う。実習中に本校教員が巡回指導に行き、実習生の指導とともに実習先の要望等を把握する。実習後の実習評価は実習施設から実習評価表を提出していただく。		
(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
保育実習Ⅰ期(保育所実習)	保育所の保育について生活や遊びの場に参加・体験することにより、乳幼児の様子を知る。子どもと保育者の関わりを通して、保育所が社会に果たす役割や機能を学ぶ。他科目の学びと保育の実践を総合的に結び付け、学びを深める力を養う。	二葉保育園 二葉くすのき保育園 杉並区立荻窪北保育園 わらしこの会わらしこ第2保育園 厚生館 厚生館保育園 小鳩会つくし保育園
保育実習Ⅰ期(施設実習)	保育実習Ⅰ-1の経験を踏まえて、保育所以外の施設で行われている特別なニーズに対する支援について学ぶ。各施設の現状や課題、施設の保育士に求められる役割についての必要な能力を学ぶ。	目黒恵風寮 厚生館立花 二葉保育園二葉乳児院 小百合の寮 高円寺療育センター杉の実
保育実習Ⅱ期	保育所の保育活動を通して、保育実習Ⅰ期—1で身につけた保育士としての能力・技術を一層深める。家庭や地域への関心と視野を広め、子育て支援に対する保育所の役割と機能を理解する。	二葉保育園 二葉くすのき保育園 なの花会たんぽぽ保育園 小松福祉会白梅保育園 厚生館 厚生館保育園 陽光会 陽光保育園
保育実習Ⅲ期	保育実習Ⅰ-2で習得した知識や能力をさらに深める。児童厚生施設や社会福祉施設の活動に参加し、保育士として必要な資質、能力、技術を学ぶ。	渋谷区社会福祉事業団ブルーム 笹塚 二葉保育園 二葉乳児院 めぐろアフタースクール よつぎ療育園 町田子どもセンターまあち
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員研修は、企業等との連携を重視しながら、教員の資質及び能力の向上を図り、本校の教育理念に沿った教育を行うのにふさわしい教員を養成することを目的としている。研修の内容は、教員研修規程第3条に定められているように、教員が現に担当し、又は、将来担当することが予想される教務と責任の遂行に必要な知識、技能等を修得させる内容とする。校長は、教員研修規程第4条に基づき、研修計画を立て教員に研修の機会を与えなければならない。校長は、研修を実施した場合は、研修計画書の改善、職員の活用その他の人事管理に資するため、研修の記録を作成する。		
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等  研修名: 全国保育士養成セミナー 出席者数: 5名(うち専任教員数5名、兼任教員数0名)(全専任教員数8名、全兼任教員数11名) 研修概要(連携企業等、期間等): 平成30年9月13日～15日、全国保育士養成協議会主催の研修会において、今、保育に求められているものについて研修を行った。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 保育の質向上を目指して保育現場と養成校の学習会 出席者数: 8名(うち専任教員数8名、兼任教員数0名)(全専任教員数8名、全兼任教員数11名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 平成31年1月24日、保育現場に定着する保育士を育てるための教授法とは何かを、保育園長等から提起してもらい議論した。連携先企業等: 白金みつばち保育園(東京都港区)、二葉南元保育園(東京都新宿区)、鳩の森保育園(東京都港区)、等々力保育園(東京都世田谷区)、さやまが丘保育園(埼玉県狭山市)、世田谷つくしんぼ保育園(東京都世田谷区)

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 全国保育士養成セミナー 出席者数: 4名(うち専任教員数4名、兼任教員数0名)(全専任教員数8名、全兼任教員数11名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 令和元年8月29日～30日、全国保育士養成協議会主催の研修会において、保育の質と人間形成への創造についての研修。

②指導力の修得・向上のための研修等

○研修名: 保育現場と養成校の連携会議1 出席者数: 8名(うち専任教員数8名、兼任教員数0名)(全専任教員数8名、全兼任教員数11名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 令和元年6月25日、保育の質の向上を目指して、企業(保育現場)は、養成校にどのような教育、指導を望んでいるか。特に、新人教育のあり方について養成校と企業(保育現場)と学び合う。連携先企業: 喜多見野の花保育園(東京都世田谷区)、せたがや小鳥の森保育園(東京都世田谷区)、ドリームキッズ中町保育園(東京都西東京市)、どんぐり山保育園(東京都三鷹市)、母子愛育会ナーサリールーム((東京都港区)、ナオミ保育園(東京都世田谷区)  
○研修名: 保育現場と養成校の連携会議2 出席者数: 8名(うち専任教員数8名、兼任教員数0名)(全専任教員数8名、全兼任教員数11名) 研修概要(連携先企業等、期間等): 令和元年12月10日、保育園に就職しても定着しない保育士が増えている。どこに原因があるのか。養成校の教授法をどう改善すれば良いのか。企業(保育現場)の意見要望等を聞かせていただき、最善の教育、指導方法を探る。連携先企業: 厚生館保育園(東京都墨田区)、世田谷小鳥の森保育園(東京都世田谷区)、喜多見野の花保育園(東京都世田谷区)、二葉南元保育園(東京都新宿区)、等々力保育園(東京都世田谷区)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校は、教職員による自己点検・自己評価の結果を基に、本校の学校経営、教育活動について意見要望等を提起していただくために、専門分野における業界関係者(業界団体・職能団体)、卒業生、地域住民等の代表者から成る学校関係者評価委員会を設置している。委員会では、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、教育理念、学校経営、教育活動等10項目にわたって意見要望等をいただき、委員会報告書として集約していただいている。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念、目的、育成人材像
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事給与制度、情報システム
(3) 教育活動	教育方法・評価等、授業評価、資格・免許取得、教員
(4) 学修成果	就職率、資格・免許取得率、卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	就職等進路、中途退学対応、学生相談、卒業生対応
(6) 教育環境	施設設備等、学外実習、防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	学生募集、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画
(9) 法令等の遵守	関係法令、設備基準等の遵守、個人情報保護
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、ボランティア活動
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

①社会経験のある保育士というのは、保育現場において以前にはない効果をもたらしている。今後とも、社会人教育に力を入れてほしい～本校は、東京都の教育訓練(求職者支援制度等)受託校の先駆けとしての自負がある。今後とも、力を入れていく②精神的に病んでる学生の対応を十分行ってもらいたい～系列の福祉施設の専門職(精神保健福祉士)の力を借りて対応したい③学校内のピアノ室、調理実習室、レクリエーション室等を地域住民への開放を進めるべき～土曜日の開放は行っているが、日曜日、平日の開放なども検討する④学生確保に全学あげて取り組むべきだ～努力する⑤本校は、高齢者支援の介護福祉科と子育て支援の子育て支援学科がある。地域を巻き込んだ世代間交流の拠点になるべきでは～検討している。

## (4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
長澤武嗣	新宿区社会福祉事業団若葉高齢者在宅サービスセンター所長	平成30年11月15日～平成31年3月31日	業界職能団体
小室孝子	北区社会福祉事業団高齢者在宅サービスセンター上中里つつじ荘センター長	平成30年11月15日～平成31年3月31日	業界職能団体
町田とし江	社会福祉法人二葉保育園二葉南元保育園園長	平成30年11月15日～平成31年3月31日	業界職能団体
牧 裕子	社会福祉法人さやまが丘保育の会常務理事統括園長	平成30年11月15日～平成31年3月31日	業界職能団体
竹浪隆義	首都大学東京大学教育センター特任教授 元都立高校校長	平成30年11月15日～平成31年3月31日	学校関係有識者
徳堂泰作	社会福祉法人東京ムツミ会ファロ施設長	平成30年11月15日～平成31年3月31日	地域福祉団体
合原由美	卒業生 平成28年3月卒業	平成30年11月15日～平成31年3月31日	卒業生
増田亜希子	卒業生 平成29年3月卒業	平成30年11月15日～平成31年3月31日	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

## (5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL: <http://www.ti-fukushi.ac.jp>

公表時期: 令和元年10月9日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

## (1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等を代表して各種委員会に参加していただいている方には、報告書等で情報を提供している。一般的には、本校のホームページ等で情報の公開を行っている。

## (2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	運営方針、事業計画、運営組織、
(2) 各学科等の教育	理念、目的、育成人材像
(3) 教職員	人事給与制度、教職員研修
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育編成課程、施設設備
(6) 学生の生活支援	学生相談、学生寮、
(7) 学生納付金・修学支援	経済的支援、奨学金制度
(8) 学校の財務	財務基盤、予算・収支計画
(9) 学校評価	学校関係者評価、教職員による自己評価
(10) 国際連携の状況	----
(11) その他	----

※(10)及び(11)については任意記載。

## (3) 情報提供方法

ホームページ

URL: <http://www.ti-fukushi.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			日本国憲法	憲法の理念、保障される権利、義務、法の解釈、生活との関わりを学ぶ。また、保育士に必須の法令等を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			心理学	心理学の歴史的発展と概要を理解する。乳幼児期、児童期、青年期、老年期などに特有の身体的、心理的特徴を学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			子どもと絵本	絵本成立過程を概観し、長く読み継がれてきた絵本や新作絵本を読み解く。各自の絵本観の構築を図り、絵本選択の力を養う。絵本大好き保育士を目指す。	2通	60	2			○				○	
○			英語	外国人に対する対人援助場面やインタビューなどにおいて臆することなく対応できる能力を身につける。	1通	60	2			○				○	
○			体育理論	運動の必要性や実践理論を学び、保育士として児童や保護者に対して指導的役割を担えるようにする。	1前	16	1	○			○			○	
○			体育実技	保育施設などで実践できる走る・跳ぶ・支えるなどの身体運動技術を身につけ、併せて、学生自身の体力向上も目指す。	1前	30	1			○	○			○	
○			保育原理	子どもの最善の利益を保障する保育とは、養護と教育の一体性、発達過程に応じた保育とは何か。などを学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
○			教育原理	教育の意義・目的、児童福祉との関わりについて理解する。さらに、教育の思想、歴史などについても理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			子ども家庭福祉1	現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史について学ぶ。さらに、子どもの人権擁護について学ぶ。	1前	30	2	○			○			○	
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



## 授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			子ども家庭福祉Ⅱ	児童家庭福祉の制度と実施主体を学び、現状と課題、動向と展望について理解する。	1後	30	1	○			○				
○			社会福祉Ⅰ	現代社会における社会福祉の意義について学び、児童福祉、児童の人権、家庭支援と社会福祉の関係を理解する。	1前	30	2	○			○				
○			社会福祉Ⅱ	福祉の理念、保育士の職業倫理、保育指針に定められた保育士の役割、さらに、産業構造・労働環境等についても学ぶ。	1後	30	1	○			○				
○			家庭支援論	子ども家庭支援の意義と実施体制について学ぶ。保育士による子ども家庭支援の基礎を学ぶ。	2前	30	2	○				○			
○			社会的養護Ⅰ	社会的養護の意義と歴史について学ぶ。子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。	1後	30	2	○			○				
○			保育者論	保育の専門性に基づく職務内容を理解する。保育の今日的課題を確認し、保育の質の向上、を目指す保育士像を探る。	2後	30	2	○			○				
○			保育の心理学	乳幼児の発達過程や個人差に応じたほいくができる力を身につける。乳幼児の発達に即した保育実践を学ぶ。	1後	30	2	○			○				
○			生涯発達と心理学	乳幼児期の発達と適応、発達障害の理解と対応、保護者支援の具体策、発達検査、知能検査の結果等について学ぶ。	2前	30	2	○			○				
○			子どもの理解と遊び	子どもの理解と援助について、その媒介となる遊びの学びを通して探求する。	2後	30	1	○			○				
合計				科目	単位時間( 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。



授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			子どもの保健	小児の発達・発育、病気・けが、事故、病気の予防と保健指導、さらに、生活、環境、保健行政について学ぶ。	1前	30	1	○			○			○	
○			子どもの食と栄養Ⅰ	食生活の意義、栄養、食育環境と地域の関りについて学び、家庭・社会での食生活の現状について理解する。	1後	30	1		○		○				○
○			子どもの食と栄養Ⅱ	栄養の基本的概念、栄養素、離乳期の食形態と機能の発達、献立、調理の基本、授乳等について学ぶ。	2前	30	1		○		○				○
○			保育課程論	発達のプロセス、保育の計画と評価を理解する。保育課程の編成と計画作成に対具体的に理解する。	2後	30	2	○			○				○
○			保育内容総論	保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連づけて理解し、保育の全体的な構造を学ぶ。	2前	30	1		○		○				○
○			保育内容総論(人間関係)	家族、保育し、他の大人、子どもたち同士との出会いなど、成長過程において人との関わりによる影響を理解する。	1後	30	1		○		○				○
○			保育内容総論(言葉)	保育士として、言葉で表される意志や感情の意味を理解し、人との関わりにおける言葉の役割を学ぶ。	1後	30	1		○		○				○
○			保育内容総論(環境)	保育環境の整備と子どもたちにどのような点を注意して援助すべきかを、保育現場の事例を通して理解する。	1前	30	1		○		○				○
○			保育内容総論(健康)	子どもの健康、その維持、回復に必要なことを学び、保育士自身の健康についても学ぶ。	1前	30	1		○		○				○
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育内容総論(表現)	コミュニケーションの意味と保育士の役割を学ぶ。乳児期の育ちと保育の現代的課題を表現の領域から理解する。	1前	30	1		○				○		
○			保育内容総論(音楽)	子どもの豊かな音楽表現を導くための保育者の感性を育てる。音楽による表現活動の意味を考える。	1通	60	2		○				○		
○			保育内容総論(造形)	子どもの表現を受け止め、その思いを喪失させない造形活動の展開ができる知識。技能を学ぶ。	1通	60	2		○				○		
○			乳児保育Ⅰ	乳児保育の必要性、役割を理解する。保護者と保育者の協働・地域関係機関との連携について学ぶ。	1後	30	2	○					○		
○			乳児保育Ⅱ	乳児期の生活、遊び、保育の方法・形態、環境、配慮、指導計画と記録など具体的事例から学ぶ。	2後	30	1		○				○		
○			子どもの保健Ⅱ	多様化している保育ニーズを知り、本質をとらえていける目を育むために、実際の現場を通じた保健的知識を学ぶ。	2後	30	1		○					○	
○			障害児保育Ⅰ	障害児保育の現状と課題を把握する。福祉と人権の思想を学ぶ。親子の生活と発達と障害の関連について理解する。	1後	30	1		○				○		
○			障害児保育Ⅱ	障害児保育の保育内容・方法を学ぶ。保護者とともに、小さいとの連携、小学校への連携を考える。	2前	30	1		○				○		
○			社会的養護Ⅱ	社会的養護における児童の権利擁護や保育士の倫理及び施設養護の実際について理解する。	2前	30	1		○				○		
合計				科目	単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

## 授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			保育相談支援	保育相談援助の概要、方法、技術について学ぶ。保育相談援助の具体的展開について理解する。	2後	30	1	○			○				
○			保育相談援助Ⅱ	保育者支援の理論と技術を学ぶ。保育士の専門性をもって自己啓発に努め保育士の倫理観を養う。	2前	30	1	○			○				
○			保育実習Ⅰ (保育所実習)	保育所保育の面白さを感じ、保育への関心を高める。一日の保育の流れ、保育環境、乳幼児の生活や遊びについて学ぶ。	1後	80	2			○	○	○		○	
○			保育実習Ⅰ (施設実習)	困難を抱える子どものための施設や日常生活に関わり、施設の役割、機能、保育士の役割を学ぶ。	2前	80	2			○	○	○		○	
○			保育実習指導Ⅰ	実習の意義、目的、心構え、事前の事務手続き、実習目標、保育日誌の書き方、実習施設の事前学習などを学ぶ。	1後 2前	60	2	○	○		○				
○			保育実践演習	主体的に学ぶ姿勢から、学びを総合的に捉え、自ら気づき、確かめ、考え判断する力を養う。	2通	60	2	○	○		○				
○			家族社会学	家族支援を行う前提として、現代の家族像を社会的に捉え、つくられた家族、現在の家族制度について学ぶ。	1後	30	1	○			○				
○			保育文化史	保育文化を歴史的視点から学ぶ。その過程で、何を継承し創造していくかを知り、保育士としての力を獲得する。	2後	30	1	○			○				
○			保育教材論	保育における教材意味と役割を知る。実践と評価を通して教材研究を行う素養を身につける。模擬保育ができる。	2後	30	1	○			○				
合計					科目		単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			保育の言語表現技術	言葉の持つ意味や伝え方を理論と実践から学ぶ。児童文化の実践を通して子どもと新たな文化創造を目指す。	2後	30	1	○			○		○		
	○		持続可能な社会と保育	子どもの幸せの前提として社会・経済・環境の側面から地球の未来を考える。その世界の取組みと関わらせて理解する。	2後	30	2	○			○		○		
	○		人間関係Ⅱ	集団保育における子どもと子どもの関係とその発展の実践を理解する。集団作りの意味、保育内容との関係等を学ぶ。	2前	30	2	○			○		○		
	○		しなやかな身体づくり	身体に優しい動きを体験する。様々な遊び・運動を知り、効能を獲得する。しなやかさの意義をつかみ、方法を学ぶ。	2後	30	1	○			○			○	
	○		児童文学	児童文学の成立を概観しながら、いろいろなジャンルの作品を読み、児童文学の面白さを体感する。思考力、想像力、表現力等を養う。	2後	30	2	○			○		○		
	○		子どもとアート	美術鑑賞や多様な素材を使い、触れる、聴く、創る、描く、謡う、演技するなどの表現活動から自分を発見する。	2後	30	2	○			○		○		
	○		子どもと表現	伝承の文化は実践を通して喜びを子どもたちと分かち合うという体験をする。子どものしていることはすべて意味があることを知る。	2通	60	2	○			○			○	
	○		子どもと造形	子どもの遊びと造形活動の意味を理解する。造形活動の基礎知識及び技能を修得する。造形体験を通して、豊かな感性を育てる。	2通	60	2	○			○			○	
	○		子どもと音楽	1年次で学んだ基礎を生かし、創造的能力を自由に広げる感性と力を身につける。童謡、和音伴奏、ピアノ、歌、打楽器の基礎料を養う。	2通	60	2	○			○		○		
合計			科目		単位時間(単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
	1学年の学期区分	期
	1学期の授業期間	週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(社会福祉専門課程子育て支援学科)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○		保育実習Ⅱ	保育実習Ⅰ－１で身につけた保育士としての必要な能力・技術を移送深める。職業倫理について学ぶ。	2後	80	2			○		○	○		○
	○		保育実習Ⅲ	保育実習Ⅰ－２で身につけた保育士としての必要な能力・技術を移送深める。職業倫理について学ぶ。	2後	80	2			○		○	○		○
	○		保育実習指導Ⅱ	保育実習Ⅰから得た自己の課題を振り返り、新たな課題を明らかにし実習目標を確認する。	2後	30	1			○	○		○		
	○		保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅰの経験を踏まえて、養成校で学んだ保育の理論、知識、技術を実習での経験を通して統合的に学ぶ。	2後	30	1			○	○		○		
		○	パソコン操作	情報化社会においてすべての職業人が身につけるべき情報技術に関する基礎知識を学ぶ。	1前	30	1			○	○				○
合計			59 科目		2226単位時間( 90 単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
所定の授業科目の成績評価に合格すること。講義・演習・実習等を受講すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	52週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。